

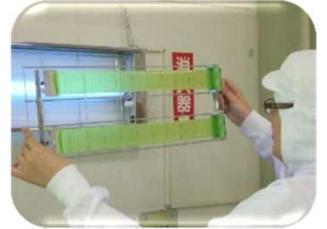
□ トピック □ 虫の異物混入事故とモニタリング調査で予防対策

3月になり、そろそろ気温が上がり始め、春を感じ始める季節となりました。4月になると人事異動や新たな仲間の上社がある企業様もいらっしゃるのではないのでしょうか。

気持ちも新たな時期を迎える前に行っておきたいことは多いですが、今年度の異物混入対策はいかがでしたでしょうか。残念ながら不幸にも虫の異物混入事故が起こってしまった、検品時に虫の混入があった、製造エリアで頻繁に虫を見ることがあって心配だったということはなかったでしょうか。こういった場合、再発防止や予防はどうされているのでしょうか。昨今の製造現場では何らかの防虫対策を取られているはずですが、昆虫類モニタリング調査の資料を今こそ見直してみましょう。

昆虫類モニタリング調査を行う理由の一つに、再発防止対策のツールという側面があります。調査でどの程度虫が捕獲されたときに問題が起こったか、ということを見返してみると、再発防止のためにはそのラインを超えた捕獲があると異物混入の恐れが高まるというのが見えてくることがあります。

今のうちに見返しておくことで、今年は昨年よりも混入事故を減らす、なくすヒントとなります。そして虫の活動が本格化する春までに予防を再考しましょう。



□ お知らせ □ トラップにカバー



せっかく調査を行っているのに誤ってトラップを捨ててしまったり、踏んだり荷物を置いたりしてつぶしてしまったり、風で飛ばされて紛失してしまったりでデータが取れなくなったり、捕鼠シートを踏んで周りがベタベタに汚れてしまって清掃が大変だった、資材などを汚損したなどのご経験はないでしょうか。粘着トラップはその名の通り粘着剤でそこを通りかかった生物を捕獲するものですが、粘着剤による失敗もよく耳にします。

今回ご紹介するトラップカバーはこういった問題を解決してくれるツールです。このカバーはステンレス製のものよりも安価で、錆びにくい高耐食性めっき鋼板を使用しており、上記のような失敗を起こしにくくします。また、屋外から侵入してくるネズミやダンゴムシ、ムカデなどに対し、このカバーでトラップを雨風から守ってやることでひさし屋根の下だけでなく、建屋周囲での積極的な捕獲駆除や調査を行うことが可能になります。

正確なモニタリング調査や積極的な駆除を行うためには調査トラップを正しく使用する必要があります。上から降ってくるごみでトラップがすぐにダメになってしまうようなところでもトラップの寿命を延ばすことができ、より問題を掴みやすくなります。この機会にぜひご利用ください。

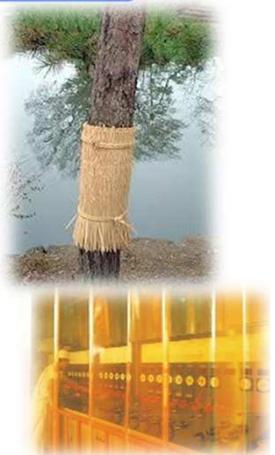
□ 豆知識 □ 消える風物詩

昔の人々の知恵が現在まで続き、それによって形作られたいろいろな季節の風物詩があります。しかし、そのいくつかは近年の検証や科学の進歩で目的としていた効果が得られなかったり、かえって逆効果だったりするなどで、その姿を変えたり、消えつつあったりしているものもあります。

冬を迎える前に木の幹に藁を巻き付け、虫が動き出す「啓蟄」に外して焼く「菰巻」では、冬越しをする虫の性質を利用し、藁の中で越冬した害虫を除去することを目的としていましたが、近年の研究では害虫を捕食する肉食のカメムシやコウチュウ、クモ類なども一緒に駆除してしまうことがわかり、かえって春先の害虫の活動を活発化させてしまうことが危惧されています。このため、最近では積極的に菰巻は行われず、私たちの目を楽しませるためだけにわずかに残るようになっています。

よく防虫資材として様々な場所で目にするオレンジ色のビニールカーテンも、紫外線カット効果や物理的な障壁としてよく目にしますが、昼間はかえってその色で飛来侵入虫を誘引してしまうことがわかり、場所によっては新たな設置を検討するところは減少傾向にあります。

上記のようなものはごく一例ですが、物事をうのみにするのではなく、不思議だと思えることを検証したり、情報を集めたりしていくことが技術の進歩へとつながっていくのではないのでしょうか。



総合衛生コンサルタント・生物害防除

東洋産業株式会社

URL: <http://www.to-yo-s.co.jp>

本社：岡山県岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL(086)241-8080 FAX(086)241-8094

拠点：大阪、姫路、岡山、倉敷、福山、広島、高松、松山

関東(市川)